



世紀を越えて伝承する、「古民家蘇生」。



世紀を越えて伝承する、 「古民家蘇生」

「古民家蘇生」とその魅力

日本には、古くは三百年以上も前に建てられた建物が現在でも残っています。中には、文化財として国や県で保存されているもの、震災や台風等の天災でその姿を失ったもの、修繕を余儀なくされ今なお当時の面影を再現しているもの、さまざまに都市や町の佇まいの中で景観条例やその他の条例で保護されています。その頃の木造建築物といえば、現代の様なボルトや鉄骨技術がまだなく、職人の腕と経験による巧みな技により、建築物を築き上げていました。ただその技術は現代のそれらに勝る施工で、三百有余年前の建築物でありながらも今なお老朽化はしても建ち続けています。

川嶋建設は、それら建築物の特性を活かし、懐古趣味からあるいは古材再利用の観点からみなされるのではなく、また古くなった民家を元通りに修理復元するだけのものではない「古民家蘇生」をテーマに掲げて、後百年住める家を目指しています。

古い民家のイメージと言えば、汚い・暗い・寒い等が挙げられ、これからの諸条件から現代のライフスタイルに対応できなくなり、いとも簡単に壊し、新築をと考えている方が大半だと思います。ただ建築家が慎重に調査し、診断した上で、適切な処理を施せば、新しい現代住宅に生まれ変わる民家は沢山あります。

「古民家蘇生」は古い建物に新しい生命を吹き込み、現代のライフスタイルに合う暮らし環境を築くことが最も重要な魅力であると考えます。

伝統と現代技術の芸術的調和。



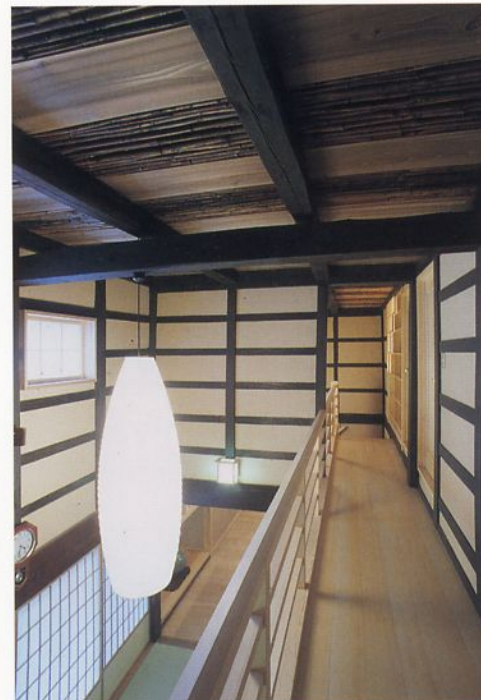
平成の大蘇生

昔から受け継がれてきた伝統と現代建築の融合、新しい息吹きが、現代のライフスタイルに活きる。



ゆったりとした広さに暖かい品の漂う玄関は、訪れる人をやさしくで迎えてくれます。

高い天井を存分に生かした踊り場。贅沢なスペースゆとりとやすらぎの空間を造りあげました。



和装にとけ込んだ広いリビング。洋式との見事なバランスで、暖かさを演出します。



先人の思い出もそのままに、新しく蘇りました。衿を正し静寂の中にやさしく包み込む。趣のある伝統の本物の和室。



I邸／兵庫県豊岡市

築後200年以上の長屋門をもつ旧家の蘇生ではありますが、一度移築されている上に数回による改修工事も行われ、かなり現代的な部分が見られる建物でした。建物全体を蘇生する事は難しいと判断し、玄関を含む昔ながらの田の字型の4部屋を蘇生とし、他は改築とする事にしました。

この家の魅力は、大きな吹抜けとした茶の間と階段を設けたホールで、昔から天井裏でこの家を見つづけていたス竹を再度天井材として使用し、昔と同色の土カベで仕上げていているところです。又、改築したLDKにも昔を思わせる松丸太の梁を室内に見せ、天然素材の使用により新鮮な空間をつくり出して蘇生部分との調和をもたせています。

新しい松丸太が新たな歴史を刻み、200年後・300年後にまた蘇生される事を期待するものです。この家の特徴でもあった長屋門がなくなりましたが、これのあった位置に新しく門をつくり塀をめぐらせ建物全体を大きく見せた現代風の住宅となっています。



梁の形状を活かした、お洒落でモダンな2階和室



生活に密着した広い贅沢な玄関

風景との調和 伝承の大胆な空間の美学。



吹き抜けの書斎



M邸／兵庫県朝来郡

この家を訪れるとまず外観のプロポーシオンと全体のバランスの良さに目を引かれます。そして昔とまったく変わらない姿で蘇生しているのが歴史を感じさせる建物です。昔なつかしい大戸を開けて一歩玄関に入ると、大きくて広い御影石張りの土間が広がり、昔の庄屋だった当時を忍ばせています。又、内玄関があり、当主だけが使用を許されたものをそのまま再現し格式を保っています。敷地内には2棟の土蔵があり、この土蔵それぞれを生かす形での計画となり、中庭を設けて採光と生活動線を確保しています。これにより新しくなった居間・台所・食堂は明るく快適な生活空間に仕上がりました。今回の蘇生工事では古い部分と新しい部分とがうまく調和して、なつかしさと新しさのマッチした建物となっています。



いろいろのおもてなしは、心安らぐ空間。



面影そのままに蘇生した和室。



木の温もり漂う広い玄関。

木の温もりと 新しい時間の出合と融合。



団らんの居間も新しく蘇りました。



K邸／兵庫県出石郡

この家は屋根及び外部の改修が終わり、小屋組は現代風に組みかえられており、桁から下の部分での蘇生となりました。この部分にはほとんど手がつけられていないので、昔のままのものがそのまま残っており、すべての部屋を蘇生する事ができた建物です。仏間のみに天井を設け、他は吹き抜けとし、明るく大きな空間をもつ部屋としています。特徴としては、2階の多目的ホールとDKが手すりだけの仕切りで一体となった空間を形成し、より大きく見えています。又、現代風な建物から玄関を一歩入ると昔なつかしい空間が広がり、何ともいえない心地良さと落ち着きを感じさせてくれます。客室には「いろいろ」を再現していますので、気の合った仲間との酒宴にも最適です。時間の経つのも忘れてしまいそうな部屋となっています。



悠久の時間を刻み
今、また未来につなぐ
新たな始まり

ダイナミックな中に力強さと優しさが漂う踊り場。



日本家屋の良さを改めて実感するおもむきのある空間。

日本の風土にあった和の
真髄をかいまみせる空間
に、現代生活をうまく取
込みおだやかな風合いを
見せてくれます。



古民家ならではの
ぬくもりいっぱいの
ダイニング。



A邸／兵庫県城崎郡

今回の蘇生工事の大きなポイントは、240年以上もこの家を風雨から守り続けてきたカヤ葺きの屋根を、メンテナンスと雪に対する苦勞から瓦葺きの屋根へ葺き替えを行った事です。
これにより今までの重厚な感じの家からモダンで明るい感じの家へ大変身を遂げました。
この家の特徴は、カヤ葺き屋根をささえていた黒光りする軸組をできるだけ多く化粧として見せて、昔のおもかげをしのばせる大きな空間としている事です。
玄関・ダイニングキッチン・客室は吹抜けとして古材をふんだんに見せています。
水廻りは現代の生活様式を取り入れて機能を優先させていますが、仕上材は古材・自然素材を使用して古いものとの一体感をそこなわない配慮をしています。
特にスス竹をいたるところに使用し、蘇生の魅力を十分発揮する住宅となっています。

川嶋建設は、「古民家蘇生」をテーマにさらなる「風景になる、仕事。」を目指してゆきます。



長年風雨(雪)をしのぎ、百年・二百年と暮らしを守り続けて来た住宅は、当然多方に老朽化が目立ち始めます。特に柱の根元は床下の湿気、害虫等にやられ、取り替えなければ維持できない所もあります。現代の様にボルトや鉄板等で柱を補強すれば、簡単ではありますが蘇生工事には持ち込みにくい感が有ります。

蘇生工事は、昔から受け継がれて来た伝統の技術を用い熟練を積んだ職人技と又、既存の柱と同代の材料を使用して、建築物の雰囲気と強度をそこねない技術で修復致します。継ぎの工法は建築物を支える為に、昔の人々の知恵と経験により生み出され、その強度と耐久性は優れたものがあります。そしてそれら古来の伝統技術を用いて、又既存の柱と同年代の材料を使用し、その年輪を理解した上で木目を合わせ、雰囲気と強度を損ねず修復する技を、棟梁・田中 定が継承し、後世に伝承しようとしています。右写真中央の継ぎ方は、大阪城(大阪府大阪市)の大手門にも同様な継手による柱が使用されています。このような古民家の蘇生は、職人の技に守られ、これからも次代に引き継がれてゆきます。



互いに引っ張る力に大変強い継ぎ工法です。(四方あり)



上からの力に抑えられる、縦の力に大変強い継ぎ工法です。



縦横双方の力に強く、直下型の地震に見られる、引き抜き、ねじれ等に大変強い継ぎ工法です。(金輪継ぎ)



棟梁 田中 定
昭和12年6月生まれ
株式会社川嶋建設 建築部所属
称号：兵庫の匠
資格：一級建築大工技能士
職業訓練指導員
(財)住宅産業研修財団 大工育成塾 棟梁



風景になる、仕事。

川嶋建設

株式会社川嶋建設



Kawashima

本店／兵庫県出石郡出石町町分396番地の2 〒668-0293 Tel.0796-52-3123(代表) Fax.0796-52-5878
豊岡本社／兵庫県豊岡市寿町11番35号 〒668-0024 Tel.0796-22-4321(代表) Fax.0796-22-1655
支店／神戸・大阪・東播 営業所／東京・和田山・丹後・九州

<お問い合わせ先>

住宅部営業課

プロテックセンター／兵庫県豊岡市香住15番地の1 〒668-0862 Tel 0796-29-5123(代) Fax 0796-29-5223

URL <http://www.kominka.jp> Email info@kominka.jp

 0120-63-4145
ヨイシゴト